

# 新宿区 UD まちづくり ニュースレター

Vol. 12 SPRING

第12号  
2024.03

## UDスポット わせだありーな 早稲田アリーナ

早稲田大学戸山キャンパスの正門を通り、右手にあるつづら折りのスロープを上ると、「戸山の丘」が現れます。武蔵野の雑木林らしさを感じる自然豊かなこの空間は、休日も開放されており、学生や地域の方のくつろぎの場となっています。そして、その地下部分にあるのがメインアリーナです。平成三十年十一月に記念会堂から生まれ変わったこの早稲田アリーナには、身体的な不自由がある人も、「5050」の人も、様々な国籍の人も安心して利用できるような様々な工夫が施されています。

今回は、そんな早稲田アリーナのユニバーサルデザインに関する取組について、一緒に探っていきましょう。

ユニバーサルデザイン

## UDとは？

年齢・性別・国籍・個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できるよう生活環境その他の環境をつくり上げていく考えです。

新宿区には、多くの外国人をはじめ、様々な人々が生活しています。区では、移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちを目指して、令和2年3月にUDまちづくり条例を制定しました。

このニュースレターでは、新宿区の実践や、UDスポットの紹介、利用者の声などをお伝えしていきます。



Uni-Voice  
早稲田大学提供

わせだ  
**早稲田アリーナ**

Waseda Arena

戸山の丘

UD探検隊が行く！新宿UDまちづくりスポット

座りやすい  
ドーム型の芝生



Good  
UD  
ポイント

**自然を感じるフリーアクセスな空間**

「戸山の丘」を中心に広がる自然豊かな空間は、学生の憩いの場であり、知的創造性の向上や交流・活動のきっかけとなっています。

人数や気分に合わせて選べる  
様々な形のベンチ



ラーニングcommons



だれでも見学できるよう配慮された  
「早稲田スポーツミュージアム」



階段でもスロープ  
でも移動できる！

学生コメント

上の階にも隣の建物にも移動しやすく、部室→競技スポーツセンター→学生会館・コンビニなど用事のある場所にすぐに行けます。スロープを伝えれば、階段を使わずに別棟の図書館にもたどり着くことができます。

また、窓際で自然を感じながらオンラインミーティングをしたり、天気の良い日には戸山の丘でお昼寝をしたりと、1日中ここで過ごすことができます。

(Iさん)



37号館から  
36号館に  
つながる  
スロープ



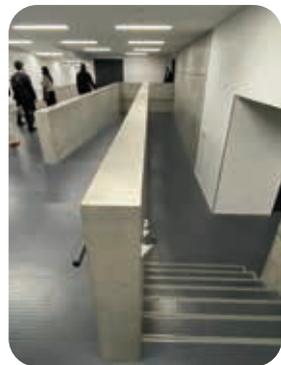
施設全体の断面図



戸山の丘  
スロープ

ラーニングcommons

メインアリーナ  
早稲田大学提供

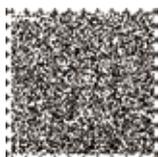


Good  
UD  
ポイント

**だれでもどこにでも移動しやすい動線**

敷地内の高低差による移動のし辛さを解消するため、エレベーターや緩やかなスロープが各所に設置されています。

「戸山の丘」に続く  
緩やかなスロープ



Uni-Voice



豊かな自然

車いすで立ち止まれる  
平らな休憩スペース

エレベーターがあり、  
車いすや松葉づえでも  
上下の移動がしやすい。



Good  
UD  
ポイント

**多様な人々への配慮が行き届いた設備**  
 身体の不自由な方、LGBTQ+の方、様々な国籍の方も使いやすい工夫が施設内の様々な箇所に施されています。

学生コメント



部活ではほぼ毎日利用しています。エレベーターやスロープが多く、キャンパス内のどこにでも簡単に移動でき、また、低い位置にある冷水器や、「だれでもトイレ」「だれでも更衣室」等の設備が整っていることから、部活だけがをして突然松葉づえや車いすを使うことになった部員からも、利用しやすかったという声を聞きました。  
 (Kさん)



性別に関わらず  
だれでも利用できる更衣室



車いすの高さに  
合わせた冷水器



車いすでも届く高さ  
のロッカー

入学式や卒業式では場内の巨大スクリーンに文字通訳(日英)を投影しています。



メインアリーナ

早稲田大学提供



車いす専用の  
客席スペース



扉にピクトグラム表示があり、外からでも中の設備がわかる!



オストメイト  
用の流し

手すり

おむつ交換台

運営者インタビュー

早稲田アリーナ(早稲田大学 37号館)は、入学式や卒業式などの会場として利用されていた記念会堂の老朽化に伴い建て替えられました。早稲田大学は以前から、大学はまちの一部としてまち全体を豊かな空間にする場所であるべきと考えていたものの、キャンパス内の空地の少なさ、敷地内の移動のし辛さといった課題を抱えていました。

そこで、それらの解決策として、**メインアリーナのグラウンドレベルを下げ、その上に「戸山の丘」と名付けた広場を設けるとともに、周りにある既存の建物とつながる通路を設けました。**それによって、敷地内に、人々が集まりくつろぐことができる緑化された空間が生まれ、建物間の移動もスムーズになりました。さらに、だれでも見学できるよう配慮されたスポーツミュージアムや、学生が日常的に使えるラーニングcommons、多目的運動施設が作られ、より機能が充実したキャンパスになりました。**施設内には、スロープや点字ブロック、車いす専用のスペースや、「だれでもトイレ」等を設けており、だれもがどこにでも行けるようになったと感じています。**

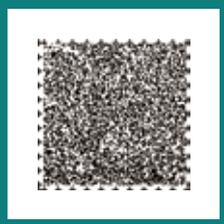
さらに、早稲田大学ダイバーシティ推進室では、**施設内のどこにどのような設備があるのかが一目でわかる「UDマップ」の作成**や環境整備をはじめとした、ダイバーシティに関する取組を進めています。教員や学生等様々な人からの要望が寄せられる度に、一人ひとりの意見を聞きつつ、現地の視察等を通して検討することで、より多くの人にとって利用しやすい場所となるよう心がけています。また、大学としてだれでも働きやすい環境を目指した取組を行っていることなどから、**PRIDE指標(※1)で2年連続ゴールド評価を得たほか、くるみん認定(※2)を受けるなど、外部から高い評価を得ています。**

早稲田アリーナは今後も、利用者の使い方や要望に応じて変化していきます。**これからもここが様々な人のコミュニケーションの場所、だれもが安心して過ごせる空間であり続けられるよう、今後もキャンパスづくりに取り組みます。**

早稲田大学  
キャンパス企画部  
北野さん、中里さん



早稲田大学  
ダイバーシティ推進室  
藤田さん、首村さん



Uni-Voice

※1 職場におけるLGBTQ+などのセクシュアル・マイノリティへの取組の評価指標  
 ※2 「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受けた証



シェアード・スペースは、歩道と車道の段差をなくしてフラットにつなぐことで歩行者と車両が同じ路面を共有し、道路全体を歩行者が自由に往き来できるようにする公道設計の考え方です。歩行者を優先して安全性を考えながら、縁石ではなく色や舗装方法で歩道と車道を区別し、標識、信号機なども最小限にして、空間を最大限に楽しむためのデザインにします。ひとが自由に移動できるようにすることで、場所の雰囲気改善し、経済的活力の高い歩行スペースを創り出すことができます。歩道と車道を同じ平面上で共有するので、シェアード・スペース(共有空間)あるいはシェアード・サーフェス(共有路面)と呼ばれます。

歩道と車道の間には縁石や柵などの物理的な境界がないと、歩道に車が入ってきて危ないと思っても知れません。しかし、シェアード・スペースではドライバーの安全運転の意識が信頼されています。車両スペースをせましくし、視覚的に境界を認識できる路面デザインや、植栽などの効果的な配置をすることによって、実際に車の運転手は速度を落とし、歩道に入らないように慎重な運転をするようになることが調査でもわかっています。

一方で、ベビーカーや高齢者、車いすなどの移動に障害がある歩行者は歩行や横断が容易になります。

歩行者は、専用の空間だけでなく、よりダイナミックに歩きまわれるので自由に往来し、立ち止まったり、おしゃべりしたりできる環境が生まれます。社会的交流が促進されることで公共空間としての多様な機能が促進されます。

公道の設計には、車線の幅員、歩道と車道の高低差、区画線や路側帯の仕様、歩行者の横断禁止など、法律による基準や規制があるため、なかなか実現するのは困難です。それでも道路空間をまちづくりに活かそうというこうした試みは拡がりつつあります。

車社会の都市から人中心のまちへ、住民も参画した民主的なプロセスを通して、多様な人がアクセスしやすく、楽しむことのできる歩行環境をつくることもインクルーシブなまちづくりの重要な要素です。

### 「シェアード・スペース 一道路のユニバーサルデザイン」



東京大学 経済学研究科  
特任研究員

丹羽太一さん

歩道と車道の境界を、縁石ではなく警告ブロックで示している。



ロンドンのエキンピジョン・ロードのシェアード・サーフェス

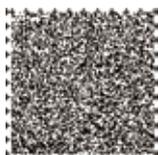
(今回のコラムはUDに詳しい専門家の方からご寄稿いただきました。)

### 新宿区からのお知らせ

### ニュースレターの「バックナンバー」を是非ご覧ください！

これまでのUDまちづくりニュースレター(創刊号~第11号)は、新宿区のHPからPDFファイルで閲覧できます。新宿区内の公園や広場などの紹介のほか、UDについてのコラムも掲載しています。

新宿区のHPはこちら→



Uni-Voice

新宿区ユニバーサルデザインまちづくりニュースレター 第12号 (令和6年3月発行)

お問い合わせ先: 新宿区景観・まちづくり課

取材・編集: (株) 苺まちづくり研究所